

標準委員会 リスク専門部会 津波PSA分科会
第5回津波PSA分科会議事録

1. 日 時 2011年7月15日（金） 13:30～17:40
2. 場 所 （社）日本原子力技術協会 C,D会議室
3. 出席者（敬称略）
（出席委員）山口主査（阪大）、桐本幹事（電中研）、倉本委員（NEL）、黒岩委員（MHI）、佐竹委員（東大）、杉野（JNES）、鈴木委員（原技協）、竹山委員（中電）、中井委員（JAEA）、成宮委員（関電）、西尾（JNES）（藤本委員代理）、松山委員（電中研）、美原委員（鹿島建設）、木下委員（NISA）、喜多委員（TEPSYS）（15名）
（欠席委員）蛭沢副主査（JNES）、平野委員（東京都市大）、秋山委員（CTC）、守屋委員（日立 GE）（4名）
（常時参加者）萩野（四電）（宮本代理）、坂田（GIS）、佐竹（原技協）、廣川（TEPSYS）（4名）
（傍聴者）猪野（東芝）、長谷川（MHI）、太田（電発）、吉（電発）、前原、小原（関西）、森本（北陸）、岩田（東京）、内山（NHK）（8名）
（敬称略）

4. 配付資料

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| RK2SC 5-1 | 第4回津波 PRA 会議議事録（案） |
| RK2SC 5-1-2 | 人事について |
| RK2SC 5-2-1 | 津波 PRA コメント及び対応方針整理表 20110715 版 |
| RK2SC 5-2-2 | 津波 PRA 実施基準本文案 r5_20110715 版（現在のまとめ） |
| RK2SC 5-2-3 | 複数の津波による影響の重ね合わせについての考え方 |
| RK2SC 5-3-1 | 標準案 事故シーケンスの評価（本体のみ） |
| RK2SC 5-3-2 | 標準案 文書化 |
| RK2SC 5-3-3 | 標準案 津波ハザード評価 改訂版 |
| RK2SC 5-3-4 | 標準案 建屋・機器フラジリティ評価 |
| RK2SC 5-4 | 評価適用例の検討について |
| RK2SC 5-5 | 津波 PRA 分科会主要スケジュール（案） |

参考資料：

- ・参考1 第4回津波 PRA 分科会議事メモ（案）

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 18 名中 14 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数（12 名以上）を満足している旨が報告された。

（1）議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 5-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。議事

録については概ね了承されたが、以下の1点を修正し最終版とすることとなった。

- ・2頁(4)：「津波の辞典」を「津波の事典」に修文

(2) 人事について

委員について、資料 RK2SC 5-1-2 に基づいて、桐本幹事から説明があった。届け出のあった木下氏が、全員賛成で委員としてリスク専門部会に推薦されることとなった。

また、常時参加者について、全員賛成で河井氏に代わり佐竹氏になることを承認された。

(3) 標準案へのコメント等について

標準案に対するコメント及びその対応方針について、資料 RK2SC 5-2-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。ステップの考え方および説明について、前書きもしくは解説に記載するかを検討することになった。また、PSA を PRA とするポジションペーパーを現在作成中であり、今後方針を決定することが紹介された。

(4) 複数津波の組み合わせの考え方について

複数津波の組み合わせの考え方について、資料 RK2SC 5-2-3 に基づいて、山口主査から説明があった。主な議事は下記のとおり。

- ・ 複数津波の重ね合わせによるハザード評価、フラジリティ評価手法が定まっていないため検討する。
- ・ 重ね合わせ等の不確かさを考慮することで、評価が複雑になることは避けるべきで、割り切りが必要である。
- ・ 地震による重ね合わせのほうが厳しくなると考えられる。地震、津波の重ね合わせについて整理する。

(5) 標準案 事故シーケンスの評価

事故シーケンスの評価の標準案について、資料 RK2SC 5-3-1 に基づいて、倉本委員および喜多委員から説明があった。主な議事は下記のとおり。

- ・ 従属性、相関性について地震 PRA の色合いが強いため、津波 PRA にあった記載に修正する。
- ・ フラジリティ、シーケンスでは“津波強さ”、ハザードでは“津波高さ”と記載している。“津波強さ”について用語の定義に入れる。
- ・ 起因事象の設定について、津波 PRA にあった記載に修正する。

(6) 標準案 文書化

文書化の標準案について、資料 RK2SC 5-3-2 に基づいて、中井委員から説明があった。

文書化については、地震 PRA もベースにしたものであり、津波 PRA 特有の記載となっているものは無い。

(7) 標準案 津波ハザード評価 改訂案

津波ハザード評価の標準案について、資料 RK2SC 5-3-3 に基づいて、松山委員から説明があった。主な議事は下記のとおり。

- ・ マグニチュード範囲の設定について、既往最大では無く、想定最大を用いる。
- ・ フラジリティ評価用の津波波源について検討する。
- ・ 断層モデルの設定について、時間を取り入れられるか検討する。

(8) 標準案 建屋・機器フラジリティ評価

建屋・機器フラジリティ評価の標準案について、資料 RK2SC 5-3-4 に基づいて、美原委員から説明があった。フラジリティ曲線について、ハザードの下限が現れるものになっているが、上限が現れる場合も考えられるため、資料を修正し、クリフエッジ、フラジリティモデルが分かる様な解説を作成することになった。

(9) 評価適用例の検討について

評価適用例の検討について、資料 RK2SC 5-4 に基づいて、西尾代理から説明があった。標準の中に評価解析例を入れ込むことになるため、今後とも各委員の成果を用いて協力してもらうことになった。

(10) スケジュール及びその他事項について

今後のスケジュールについて、資料 RK2SC 5-5 に基づいて、桐本委員から説明があった。また、8月8日(月)のリスク専門部会では本文・附属書は全て準備し、解説については目次で見せることとした。なお、標準委員会は期間が短いため、当初予定に加えて、追加で開催も可能であることが紹介された。

(11) 今後の予定

第6回 8月1日(月)午後、(社)日本原子力技術協会 会議室

第7回 8月10日(水)午後、(社)日本原子力技術協会 会議室

以 上